

平成 27 年度 第 2 四半期（上半期）報告 説明資料

朝日生命保険相互会社

当社は、平成 27 年 4 月より中期経営計画「SHINKA（新化・進化・真価）～未来に挑む～」(3 カ年計画) をスタートし、お客様志向をより追求した新・企業ビジョン〔一人ひとりの“生きる”を支える～「お客様大好き」企業。朝日生命～〕の実現に向け、様々な取り組みを行っております。

その一環として、平成 27 年 4 月に、最新のがん治療の実態に対応した「がん保険(返戻金なし型)2015」および、女性を中心とした老後の資産形成ニーズにお応えするため、従来よりも多くの年金をお受け取りいただける「個人年金保険(2015)」を発売しました。また、同年 5 月には、代理店チャネル専用商品として、7 つの生活習慣病に対する一時金保障を準備することができる「スマイルセブン」を発売し、いずれも好評をいただいております。

こうした取り組みにより、保険業績面では、当社の注力する第三分野を中心に新契約が伸展するとともに、収支面では、基礎利益が前年同期を上回る等、総じて堅調に推移しております。

今後も引き続き、持続的な成長を果たし、お客様から信頼され、選ばれ続ける会社を目指して取り組んでまいります。

1. 業績の状況

(1) 新契約

新契約年換算保険料（新規契約＋転換純増加）は、前年同期比 110.6%となり、うち新規契約については、116.6%と伸展しました。

また、第三分野部分については、前年同期比 106.8%となりました。

個人保険・個人年金保険の新契約（新規契約＋転換純増加）の状況

区分	平成 27 年度上半期		平成 26 年度上半期
		前年同期比	
新契約年換算保険料 (新規契約＋転換純増加)	126 億円	110.6%	114 億円
うち新規契約	108 億円	116.6%	92 億円
うち転換純増加	18 億円	84.9%	21 億円
うち第三分野部分	82 億円	106.8%	77 億円

(2) 消滅契約

消滅契約年換算保険料（解約＋失効＋減額－復活）は、前年同期比 99.4%となりました。

個人保険・個人年金保険の消滅契約の状況

区分	平成 27 年度上半期		平成 26 年度上半期
		前年同期比	
消滅契約年換算保険料 （解約＋失効＋減額－復活）	115 億円	99.4%	116 億円

(3) 差額（新契約－消滅契約）

新契約年換算保険料（新規契約＋転換純増加）と消滅契約年換算保険料（解約＋失効＋減額－復活）の差額が 11 億円の純増加となりました。

差額（新契約－消滅契約）の状況

区分	平成 27 年度上半期		平成 26 年度上半期
		対前年同期増減	
新契約年換算保険料 －消滅契約年換算保険料	11 億円	+12 億円	△1 億円

(4) 保有契約

保有契約年換算保険料は、前年度末比 99.0%となりましたが、第三分野部分については、前年度末比 101.0%となりました。

なお、第三分野部分の保有契約全体に占める割合は、前年度末に比べ、0.7 ポイント上昇し、32.7%となりました。

個人保険・個人年金保険の保有契約の状況

区分	平成 27 年度上半期末		平成 26 年度末
		前年度末比	
保有契約年換算保険料	5,388 億円	99.0%	5,442 億円
うち第三分野部分	1,761 億円	101.0%	1,743 億円
構成比	32.7%	+0.7 ポイント	32.0%

(注) 1. 全て年換算保険料ベースで記載しています。

新契約、消滅契約、解約・失効契約、保有契約の年換算保険料については下記のとおりです。

- ・年換算保険料とは、1 回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1 年あたりの保険料に換算した金額です（一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額）。
- ・第三分野部分とは、「第三分野商品」の保険料と、傷害・疾病・介護等のいわゆる第三分野の保障に充当される「特約」の保険料を商品の種類を問わず集計したものの合計です。

2. 保有契約年換算保険料の第三分野部分構成比の前年度末比欄は、対前年度末増減を表示しています。

2. 収益の状況

(1) 基礎利益

基礎利益は150億円となりました。内訳は以下のとおりです。

① 費差損益

費差損益は、保険料等収入の減少に伴い、前年同期に比べ19億円減少しました。

② 危険差損益

危険差損益は、保険金支払の減少に伴い、前年同期に比べ29億円増加しました。

③ 逆ざや額

逆ざや額は、高予定利率契約の満期等による予定利息の減少により、前年同期に比べ28億円改善しました。

基礎利益の状況

区分	平成27年度上半期		平成26年度上半期
		対前年同期増減	
基礎利益	150億円	+39億円	111億円
費差損益	46億円	△19億円	65億円
危険差損益	435億円	+29億円	405億円
逆ざや額	△331億円	+28億円	△359億円

(2) 経常利益・中間純剰余

経常利益は135億円、中間純剰余は98億円となりました。

経常利益・中間純剰余の状況

区分	平成27年度上半期		平成26年度上半期
		対前年同期増減	
経常利益	135億円	△104億円	240億円
中間純剰余	98億円	△75億円	174億円

3. 財務の状況

(1) ソルベンシー・マージン比率および実質純資産額

ソルベンシー・マージン比率は、前年度末に比べ0.2ポイント上昇し、667.9%となりました。
 実質純資産額は、前年度末に比べ、720億円減少し、7,843億円となりました。

ソルベンシー・マージン比率の状況

区分	平成 27 年度上半期末		平成 26 年度末
		対前年度末増減	
ソルベンシー・マージン比率	667.9%	+0.2ポイント	667.7%

実質純資産額の状況

区分	平成 27 年度上半期末		平成 26 年度末
		対前年度末増減	
実質純資産額	7,843億円	△720億円	8,563億円

(ご参考) 有価証券の含み損益

有価証券の含み損益の状況【一般勘定】(有価証券のうち時価のあるもの)

区分	平成 27 年度上半期末		平成 26 年度末
		対前年度末増減	
有価証券全体	3,879億円	△377億円	4,256億円
うち国内株式	873億円	△185億円	1,058億円
うち国内債券	2,670億円	+19億円	2,650億円
うち外国証券	330億円	△122億円	452億円
うちその他の証券	△34億円	△87億円	52億円

以上